

3 県立長野図書館

(1) 図書館事業の概要

図書館が、多様な県民の学びを支える「地域の情報拠点」としての役割を果たすため、県立図書館を中心に様々な情報を生かした新しい図書館づくりを推進した。

- ア 資料の充実（郷土資料・一般図書・児童図書・電子書籍等）
- イ 新たな情報資源の活用（化石標本、上皿天秤、子ども向け3Dプリンター等）
- ウ データベース等の情報提供の充実
- エ 調査相談サービスの充実
レファレンス協同データベースへの事例登録・提供の促進
- オ 図書館間貸出の促進
 - (ア) 市町村図書館等支援用資料の充実（郷土資料、専門資料等の充実）
 - (イ) 資料返却費用の支援
- カ 市町村図書館、図書館未設置町村、学校図書館等の支援
 - (ア) 各館の状況に応じた運営支援の実施
 - (イ) 広域単位での研修の企画・実施、開催支援、講師派遣
 - (ウ) 地区ブロック会議への出席等による広域連携に向けた連絡調整及び支援
 - (エ) 図書館設置準備支援
 - (オ) 公式 Facebook ページ等を通じた情報発信の強化
- キ 遠隔地サービスの充実
 - (ア) インターネット予約貸出の実施（送料県負担）
 - (イ) 遠隔地返却窓口の設置（県教育事務所5所、県地域振興局行政情報コーナー6所）
 - (ウ) 文献複写物の郵送受取
- ク 長野県図書館協会との連携活動の推進
 - (ア) 第74回長野県図書館大会（須坂市）
 - (イ) 公共図書館職員研修会の開催
 - ・中堅図書館員研修としての位置づけで、「これからの公共図書館研究会」の年間開催（全11回）
 - (ウ) 長野県公共図書館館長会議（R6.5）、長野県公共図書館長研修会（R6.11）

ケ 関係機関との連携活動の促進

- (ア) 信州大学附属図書館との連携
- (イ) 株式会社バリューブックス（上田市）との連携協定
- (ウ) 信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター・Fablab 長野（長野市）、株式会社アソビズム（東京）と三者の連携覚書
- (エ) 長野県立美術館との連携協定
- (オ) 長野県埋蔵文化財センターとの連携協定
- (カ) 株式会社カーリルとの連携・協力に関する協定

(2) 職員組織（人）

館長 1 副館長 1 総務企画課 10(うち 1 副館長) 資料情報課 11 会計年度任用職員 15

(3) 県立長野図書館協議会

委員の構成

職	氏名	所属・職名等
会長	渡邊 匡一	信州大学人文学部 教授
委員	内山 由香里	長野県伊那北高等学校 教諭
	大林 晃美	NPO法人本途人舎 代表理事
	春日 由紀夫	駒ヶ根市立東伊那公民館 館長
	田川 圭子	ライター、ナレーター
	田中 一樹	NPO法人 職員
	西山 卓郎	株式会社バリューブックス 社員
	平賀 研也	日本大学芸術学部 非常勤講師
	松山 佳奈子	ゆめサボママ@ながの メンバー
	棟田 聖子	松川村図書館 館長

(任期 令和5年1月1日から令和6年12月31日まで)

職	氏名	所属・職名等
会長	渡邊 匡一	信州大学人文学部 教授
委員	大林 晃美	NPO法人本途人舎 代表理事
	春日 由紀夫	駒ヶ根市立東伊那公民館 館長
	瀧本 明子	飯田市立中央図書館 館長
	田川 圭子	ライター、ナレーター
	田中 一樹	NPO法人 職員
	中村 仁志	中野市立平野小学校 教諭
	西山 卓郎	株式会社バリューブックス 社員
	庭井 史絵	青山学院大学教育人間科学部 准教授
	松山 佳奈子	ゆめサポママ@ながの メンバー

(任期 令和7年1月1日から令和8年12月31日まで)

(4) 図書館資料 (令和7年3月31日現在)

ア 図書資料

(ア) 図書 総数 784,435 冊

(令和6年度受入数 12,093 冊 (うち購入 8,205 冊、寄贈 3,888 冊))
(令和6年度除籍数 613 冊 (重複蔵書の整理、蔵書整理による不明、汚破損によるもの))

(イ) 雑誌・新聞 雑誌 719 タイトル

新聞 88 タイトル

(ウ) 古典籍、古文書等 268 点

(エ) マイクロフィルム 10,283 リール

(オ) マイクロフィッシュ 1,011 シート

イ 視聴覚資料

(ア) 16ミリ映画フィルム 2,260 本

(イ) ビデオテープ 3,035 本

(ウ) DVD 179 本

ウ 商用データベース 13 件

(5) 館内利用状況

開館日数 280 日 【平日】180 日 【土日祝】100 日
入館者数 305,941 人 1 日平均 1,093 人

(6) 調査相談

県民等から寄せられるさまざまな調査・相談に対して図書館の資料に基づいて回答する
レファレンスサービスを実施した。

調査相談件数 (分類別)

(単位：件)

分類	口頭	電話	文書、FAX、 メール	計
郷土	319	63	270	652
総記	37	7	14	58
哲学	42	8	2	52
歴史	98	20	7	125
社会科学	119	30	19	168
自然科学	109	7	3	119
技術	90	5	2	97
産業	92	12	2	106
芸術	132	13	103	248
言語	22	5	4	31
文学	153	16	12	181
絵本	118	4	1	123
新聞・雑誌	60	47	63	170
利用案内等	1,831	2,051	0	3,882
計	3,222	2,288	502	6,012

(7) 図書館間貸出

県民等が必要とする図書館資料を最寄りの公共図書館等を通じて提供する図書館相互の貸借を行った。

図書館相互の貸借冊数

(単位：冊)

図書館等		区 分	
		貸 出	借 受
県 内	公共図書館	1,536	220
	公民館図書室	260	0
	学校図書館	963	21
県 外		100	105
合 計		2,859	346

(8) 団体（公共図書館・公民館所室、学校図書館以外）貸出の利用状況

区 分	令和6年度
件 数	12
貸出冊数	37

(9) 図書館改革への取り組みー「本の館」から「地域の情報拠点」「知と創造の場」へ
地方創生の新たな時代に対応し、情報・知識基盤社会における多様な県民の「知の拠点」としての役割を果たすため、「情報の改革」「人の変革」「場の革新」により県全体の図書館サービスの中核たる県立図書館としての機能を強化し、公共図書館と共に様々な情報を活かした新しい図書館づくりを推進している。

ア 信州発「これからの図書館フォーラム」の開催

新たな時代にふさわしい図書館のあり方について提案、議論する場を展開

(R6. 7、R6. 11、R7. 3 全3回)

うち1回は、令和6年度「信州・知の連携フォーラム」(長野県における知と学びに関わる各種の文化施設(博物館、美術館、図書館、文書館などのいわゆるMLA)が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく方策についてフロアを交えて語り合う場として、2016年に発足。信州大学附属図書館、長野県立歴史館、長野県立美術館、県立長野図書館が持ち回りで実施)を兼ねて開催。

イ 図書館機能を活用した講座、市町村図書館・学校図書館等への支援

- ・「林業士入門講座」(主催：林業総合センター)(R6. 8-10 全3回)

- ・北信公共図書館連絡協議会職員研修会

(主催：北信公共図書館連絡協議会)(R6. 11)

- ・安曇野市図書館職員研修（R 6． 11）
 - ・Learn by Creation NAGANO との協働による「旅する本箱」の実施（県内のさまざまな「人が集う場」が協働して、本を媒介にして人のつながりを創出することを旨とする、社会実験的なプロジェクト）
- ほか

ウ 先進的モデル空間の運用

「共知・共創（共に知り共に創る）」をコンセプトに、人と人がつながり、共に学びあい、新たな社会的価値が創造されていく場所として「信州・学び創造ラボ」を平成 31 年 4 月にオープン。

- ・利用状況（R 6． 4-R 7． 3）
 催し モノコトフェス（R 6． 12） ほか 100 件
 視察 栃木県議会 ほか 19 件
- ・主催企画として「ラボ・デザイン会議」（R 6． 5「信州・学び創造ラボ」のエスノグラフィー）、「ラボカフェ」（R 6． 4「モノコトベースの使い方を考える会」、R 6． 12「旅する本箱お帰りの会」、R 7． 3「科学するとはどういうことか：中学生が理科の授業で考えたこと」）、「モノコトベース・オープンデー」（全 11 回）「オリジナルライブラリーカードワークショップ」（全 23 回）等を開催

エ 地域情報資源のポータルサイト『信州ナレッジスクエア』運営

- ・デジタルアーカイブプラットフォームである「信州デジタルコモンズ」において、新たに安曇野市文書館（R 6． 6）、松澤宥アーカイブ（R 7． 3）が参加機関となり資料公開を開始。

オ 電子書籍の提供

- ・令和 4 年 8 月から開始した、市町村と県による協働電子図書館（「デジとしょ信州」）、県立長野図書館電子書籍閲覧サービス「KinoDen」を継続して提供。